

## 2019年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が、学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので公表いたします。

関西学院幼稚園は、子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を実践しています。そこで、2019年度の学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」、「保健管理」、「教育環境整備」、「保護者との連携」を設定しました。

評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教員にアンケート調査を行い、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者 85.9% (177/206)、教員 93.3% (14/15) となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。加えて、今年度からアンケート調査に関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” についての質問を、「学院共通項目」として設定しました。また、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育をめざしていきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが、愛されている自分を実感できるようにキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

2020年3月13日  
関西学院幼稚園  
園長 赤木 敏之

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

建学の精神—「幼子をキリストへ」

聖書におけるイエス・キリストによって示された教育観・子ども観をもって、キリスト教主義による教育・保育を実践している。子どもたち一人ひとり、神様に愛されている存在として、慈しみ育てることを使命としている。子どもを中心に据えた教育・保育は、128年間、一貫した流れの中で受け継がれている。

教育方針

○子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。

○お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。

○神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらの教育方針に基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもたちと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行っている。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く援助を心掛けている。

### 2019年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→ 本園の教育の根幹となるため。
- ・教育課程・指導→ 重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
- ・保健管理→ 園児の健康管理は重要であり、経年変化を図るため。
- ・教育環境整備→ 子どもが遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため。
- ・保護者との連携→ 子どもの健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため。

### 2019年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教員間でキリスト教保育の理念の共通理解に努める ○園児の発達・個性を把握し、一人ひとりが愛されていると感じられる保育を行う		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・教員は、園児一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を実践し、園児のあるがままを受け止め、愛情をもって関わっている。 ・教員は、園児同士が互いに個性や多様性を認め合い、共に育つことができるよう、働きかけている。 ・教員は、園児が主体的に、喜びをもって遊び、充実感や達成感を味わえるように援助している。 ・教員は、園児の内面（意欲、葛藤、満足感など）に目を向け、できる・できないといった結果にとらわれず、その過程を大切にしている。 ・教員は毎朝保育前に祈祷会を行い、全員で讃美歌を歌い、祈りから一日を始めている。共に祈る中からも、キリスト教主義教育の共通理解につながる願いが込められている。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日に行う礼拝を年長組・年中組は18回、年少組は17回行った。教員が聖書の話を読み、さんびかを歌い、献金を捧げ、祈る時間をもっている。また、平日の礼拝の中でも、恵みを与えてくださる神様に感謝したり、家族や友だちなど、他者のことを思って祈るときを大切に過ごしている。</li> <li>・保護者会総会、クリスマス準備保護者会を行い、キリスト教保育についての理解を深めてもらう機会を設けている。</li> <li>・6月の花の日礼拝、12月のクリスマス礼拝、1月の震災を覚えての礼拝、また、数回の保護者が自由に参加できる礼拝等、園児が家族と共に礼拝を守るときをもっている。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートからは、質問1「幼稚園はキリスト教保育の考え方を保護者と共有している。(礼拝、保護者会、手紙、話等)」に関して、回答された全ての保護者が、強くそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。また、教員アンケートからも、質問1「教員は、キリスト教保育の理念を共有している。」に関して、回答した全ての教員が、強くそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。これは、幼稚園のキリスト教保育が、概ね保護者、教員の理解につながっている結果であると思われる。</li> </ul>
<p><b>今後の方策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教保育の理念については、継続して教員同士が理解に努め、研修や教師会だけでなく、日常的にも対話を重ねながら、共通認識を深めていく。</li> <li>・保護者に対しても、保護者会、礼拝、家庭通信等で引き続き情報を発信し、共に子どもを守り、愛情をもって育てていく教育への理解に努める。</li> <li>・全ての園児に、全ての教員が愛情深く、あたたかいまなざしを向けて関わり、園児が愛されている自分を感じられるよう、チームで保育を行う。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児一人ひとりが何事においても意欲的に取り組めるように援助し、自律的な精神を養う</li> <li>○環境(人的・物的)を通しての保育を実践する</li> </ul>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画を基に、月案、週案、日案を作成している。日案は、日々の園児一人ひとりの姿の変移を記録し、クラス活動を展開する上での省察をまとめている。また、週案では一週間の保育を振り返り、一人ひとりの姿や仲間関係の変化、保育者の援助の省察等を記録し、翌週の活動計画を立案している。</li> <li>・教員は、教育的配慮をもって保育活動における物的環境を構成し、人的環境として子どもが主体的に遊べるように、一人ひとりに応じた援助を行っている。</li> <li>・保育後に学年ごとに教員で集まり、その日の省察や翌日の保育に向けた打ち合わせを行っている。その際、経験年数の豊富な教員から新任教員へのサポートを行い、保育における援助の視点については担任職でない教員と共に考える機会を設け、園内研修の場ともなっている。</li> <li>・自然豊かな園庭では、子どもたち自ら草花や木の実等の自然物や昆虫に触れられるよう環境を整え、教員全員で園庭環境の維持・管理に努めている。また、自然物を通して五感を使った直接体験に繋がるようにと、日々の保育活動の「礼拝・話し合い」の中で子どもへ自然物を紹介し、話題提供を行っている。</li> <li>・教員全員で園内研修(月に一度)を行っている。主には関西学院大学教育学部より橋本祐子先生を招聘し、日々の保育の一場面を振り返り、援助の方法や園</li> </ul>		

	<p>児の気持ちの見取り等をディスカッションし、教育理念の共通理解を深めている。</p> <p>また、園内研修に加え、兵庫県私立幼稚園協会、キリスト教保育連盟、西宮市私立幼稚園連合会、西宮市人権・同和教育研究集会就学前教育部会主催の研修会に参加している。幼稚園・保育所・認定子ども園・小学校連携事業として西宮市つながり事業の集会にも定期的に参加している。各自、教員自身の研究テーマに沿った学会（日本保育学会、日本乳幼児教育学会）にも参加している。</p> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートからは、質問3「幼稚園は、子どもたちの気持ちを大切にし、主体性を育む保育をしている。」、質問4「幼稚園は、子どもたちの育ちに応じた保育プログラムを実践し、個人に添った援助を行っている」共に、強くそう思うと答えた割合が前年度と同様に、概ね高評価を得ている。引き続き園児一人ひとりへの関わりを振り返り、主体性を育む保育を展開できるように、省察を行う。</li> <li>・教員アンケートからは全体的に肯定的な結果が得られている。しかし、前年度に引き続き、強くそう思うの数値に大きな変化は見られない。保育を展開する上で子ども理解や技量の不十分さの認識から出る自省的な結果とも窺えるが、若手教員の増加や多様な雇用形態による教員間の意識の差が生じていることが要因とも考えられる。</li> </ul>
<p><b>今後の方策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の共通理解を深めるとともに、教員間での教育理念の継承(方法論だけではなく、園として大事にしてきた歴史や経緯について)を行う。</li> <li>・引き続き、園内・園外研修を行い、本園の保育内容を教員全員で振り返り意見交流を行い、保育の専門性を高め合う。</li> <li>・年間を通して日々の実践の振り返りを教員間(所属クラス内・学年ごと・他学年・全体)で行い、経験年数に関わらず援助の手立てや子ども理解について話し合う場をもつ。</li> <li>・各自で研修会、研究会、学会への参加を積極的に行い、参加した教員からの情報公開、他の教員との情報共有を行う。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保健管理 【日常の健康管理、疾病予防の取組】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防に努める。</p> <p>○保護者の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児生活調査表（毎年度保護者が記述）にて、園児一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握し、特に身体的・精神的特長を持った園児（痙攣、心臓病、発達障害、アレルギーショック症状、肢体不自由等）については、全教職員が会議等で定期的に「成長や課題」について話し合い、必要な対応・援助について共通理解している。</li> <li>・伝染病（インフルエンザ、流行性胃腸炎等）などで、欠席者増加の兆候が見られた際には、園医に相談の上、保護者に状況を伝えている。尚、怪我、流感、伝染病に関しては、全国、地域の状況を捉え、意識して予防に努めるように全教職員で共有している。</li> <li>・園児の健康状態については、教員が登園時に視診を行い、保護者からも随時、話を聞き、必要に応じて直接園児の健康状態を聞いている。</li> </ul>		

- ・保育中は、園児の体調の変化に目を配り、検温・保護者に連絡等を行っている。降園時、帰宅後も保護者と連絡をとり、園児の健康状態の把握をしている。また保育中には、園児の状態に応じて保健館と連携し、指示を仰いでいる。
- ・園児が心身ともに健やかに園で過ごせるように、受診している医師の診断、園医に相談した上で、受け入れを行っている。また、特定の伝染病（インフルエンザ、流行性胃腸炎等）に罹った園児に対しては、医療機関で診断を受けた上で、保護者に「登園許可証」の提出を義務づけている。
- ・園医による「ほけんだより」（年間6回発行）を配布した。その中で、園児の保健衛生に関わる事柄を取り上げ、医師としての立場から最新の医療情報や、医学的な視点からの切り口による見解を伝えつつ、保護者が自ら疾病予防や健康的な生活の向上に努めようとする意識を高めるきっかけづくりをしている。
- ・園医による救急法講習（AED、CPR、エピペン使用法）を教員が受講した。また、保護者会活動で、保護者の希望者に園医が救急法講習会を行った。
- ・アレルギーショック症状の緊急対処法の指導を受けている。また、アレルギー対応者には、園で提供しているおやつ・食事・飲み物に関して、原材料表（産地、製造ラインを含む）を配布し、必要に応じて代替・除去等の対応を行っている。
- ・保護者のみならず、園児については保育の中で「うがい、手洗い」「好き嫌いなく食事をする」「衣服による体温調節、体調管理」「歯磨き」など個人が意識できるように話し合っている。
- ・その時々園児の心身の状態を見て、保育後や週末の過ごし方など、保護者に伝えている。

#### （取組の効果に対する評価）

以上のような取組を行っている中で、保護者アンケートでは、質問5「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」において、強くそう思うが59.3%、どちらかと思えばそう思うが37.9%、あまりそう思わないが2.8%となった。このことから、幼稚園が実際に行っている事柄の説明が細やかにされていることや、伝染病罹患者の人数の増加にともなって、状況を保護者によちえんネット（ネットワークツール）や降園時のアナウンス等で伝えていることが上記の認識につながっているのではないかと推測される。

質問6「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。（園医と連携の上）」では、強くそう思うが51.4%、どちらかといえばそう思うが45.2%、あまりそう思わないが3.4%となった。この結果は、園医による「ほけんだより」の配布や子どもの様子から各担任が意識して降園後や週末の過ごし方を伝えていることが、理由に考えられる。

教員アンケートでは、質問5「幼稚園は、園児一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」に関して、71.4%（前年比48.7%増）が強くそう思う、21.4%（前年比51.3%減）がどちらかといえばそう思う、あまりそう思わないが7.1%（前年比2.6%増）となり、質問6「また、怪我、疾病等の対応については園医に相談の上、行っている。」では、強くそう思うが85.7%（前年比16.1%増）、どちらかと思えばそう思うが14.3%（前年比11.8%増）、となった。これは、教員間で、教師会などで伝えられた内容以外に日常的におこる園児の体調や精神的な変化の共有ができたことが理由に考えられる。一方、質問5のあまりそう思わないと答えた教員が増えた理由に、体調の変化がみられたり、怪我をした子どもに対する判断や対応について、教職員間で細かい部分の共有が十分でないことが考えられる。

<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康的・衛生的な生活の向上」「病気の予防」等について、保育の中で園児に伝えると同時に、園児自身が意識し実践できるように保護者にも伝え、意識づけしていく。</li> <li>・各クラスで、病気の予防・対策等、園児が心身ともに健やかに過ごせるように更に啓発していく。</li> <li>・子どもの疾病や、健康管理に関する手紙を「ほけんだより」として定期的に発行する。また、保護者に配布している「学年だより」においても、園児の健やかな生活を促す内容を引き続き掲載する。</li> <li>・教員全員で、園児の心身の健康状態に関して、更に丁寧に話し合い、伝え合っていき、その対応などについても細やかに確認しあう。</li> </ul>
--------------	--

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法人と連携した施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う</li> <li>○法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う</li> <li>○教員の教育、研究のための環境の充実を行う</li> </ul>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、教員で小屋・倉庫・雲梯・ベンチ・机などの遊具に柿渋(天然防腐剤)を塗った。</li> <li>・植物環境の充実を図るために、季節ごとに種蒔きや、球根、花などを植えた。</li> <li>・保育で使用したサツマイモの蔓、枯れた草花、カブトムシの糞などを土と混ぜて腐葉土にし、土壌改良を図っている。</li> <li>・毎日、登園前に教員が安全確認(施設整備、遊具等の点検など)、園児を迎え入れる為の準備(保育室環境、清掃など)を行う。また、保育後は教員で保育室、デッキ、園庭等の清掃をしている。</li> <li>・園庭権所の一部の掃除を毎週行っている。</li> <li>・自然災害が起こる事が予想される場合には、事前に対応策を講じ、被害を最小にとどめるように努めている。また、災害発生時には、園児が安全に過ごせるように復旧作業を行い、園舎・園庭の安全確認を行ったうえで園児を迎え入れている。</li> <li>・経年劣化した倉庫の建て替え、修繕を行った。また、ピアノ1台、デジタル身長体重計2台、ポータブルスピーカー1台を購入した。</li> <li>・砂場の砂の補充を行った。</li> <li>・砂場の衛生を保つために、毎週砂の掘り起こしを教員が行っている。</li> <li>・園庭にハーブ(レモンバーム、ブルーセージ、カレープラント、ミントなど)や、スマレ30株を植え、子どもたちの遊びの充実を図った。</li> <li>・遊具・設備は随時、総務・施設管理課、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、修繕を行っている(手押し車、ロープ、トンネル、倉庫の扉、保育室の天井、保育室のロールカーテン、ロッカー、エアコン、お手洗い・保育室の扉の緩み、便器の洗浄レバー、屋根、ホールや保育室、職員室、デッキの電球交換等)。また、適宜、それらの保守点検も行っている(冷蔵庫、AEDなど)。</li> <li>・教員が、日頃から樹木の剪定や草の刈り取りをしている。また随時、総務施設管理課に相談し、高木の剪定をしてもらっている。</li> <li>・保育の充実を図るために適宜、遊具を加えた(竹馬購入、保護者会よりクリスマスプレゼントとしてソフトラグビーボールを10個購入)。</li> <li>・園児がプレゼント製作で使用する教材(木材、布類、レース、包装紙など)は、</li> </ul>		

	<p>教員が検討した上で年度ごとに購入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本、図鑑、大型紙芝居を合計 118 冊購入した。</li> <li>・教員全員で園内研修や私立幼稚園教員子育て支援研修などの研修会に参加できるように、調整した(預かり保育の日程調整、園庭開放の時間短縮等)。また、個人で研修会に参加した教員からは、内容を聞き情報を共有している。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <p>保護者アンケートからは、質問 7「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検・整備を適切に行っている。」に関しては、68.2%が強くそう思う、31.3%がどちらかといえばそう思う、と答えており、保護者は肯定的に捉えていると思われる。</p> <p>教員アンケートからは質問 9「幼稚園は、保育者の教育・研究のための環境(学会・研修会への参加も含む)作りに努めている。」に関しては、強くそう思う 50.0%、どちらかといえばそう思うが 35.7%、あまりそう思わないが 7.1%、まったくそう思わない 7.1%と答えている。この結果から、園内研修や研修会に参加する機会は十分に与えられているものの、教員一人ひとりが求めている研修会とは必ずしも一致するものではないことが窺える。</p>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設整備の安全、維持管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き法人との連携を円滑に行うとともに教員一人ひとりが園児の安全を念頭において、施設・園庭を日々点検・整備する意識を高める。また、自然環境の充実や土壌改良を意識して行い、より良い遊び場としての環境づくりに努める。</li> <li>・幼稚園が取り組んでいる環境作り、経年劣化に伴う補修・修繕箇所を保護者とも共有できるように、引き続き保護者に随時状況の報告をする。</li> </ul> </li> <li>○遊具・教材遊具の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の研究模索を続け、日々の園児の姿に照らし合わせながら、各クラス・各学年、および園全体で必要な教材・遊具を取捨選択する。</li> </ul> </li> <li>○保育者の教育、研究のための環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が園内研修・研修会に参加できるような環境を整える。</li> <li>・教員一人ひとりが保育者としての誇りをもち、子どもたちの心身の成長発達に多大な影響を与えるものだと自覚して、保育の専門性の向上を図るなど自己の研鑽に努める。</li> </ul> </li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p><b>保護者との連携</b> 【信頼関係を深め子どもの育ちについて共に考える】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>○園の教育方針への理解を深め、園児の心身の健全な発達を願って、家庭との連携を図る</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園時、保護者が園児を送迎するので、教員と保護者が顔を合わす際、家庭での様子を聞いたり、園での園児の様子を伝えることを日常的にできるようにしている。時には園生活を送る上での悩みや、子育て相談なども行っている。</li> <li>・毎日の登園時に、正門のボードにその時々々の園児の様子や、興味関心などの内容やエピソードを記載し、園生活の理解に繋げている。</li> <li>・降園時にはクラスの保護者に向けて、担任がその日の保育の出来事や子どもの姿を伝え、そのときの子どもの育ちや願いを共有できるようにしている。</li> <li>・全園児の誕生日を全教職員で把握し、当日、若しくは近い日にお祝いの言葉をかけることを大切にしている。そのことにより、園児も保護者も一人ひとりが</li> </ul>		

	<p>愛されていることを実感し喜びの時となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の様子や伝達事項などをホームページやようちえんネット（ネットワークツール）で発信している。</li> <li>・家庭訪問（毎年度当初）、クラス懇談会（1学期）、個人懇談会（2学期、3学期）を行い園児一人ひとりに添った援助方法や願いや育ちを考え合っている。</li> <li>・学期ごとに保育参観日を設け、幼稚園での園児の様子を具体的に知ってもらうことが保護者の安心に繋がっている。</li> <li>・保護者会総会では日頃の園児の姿をビデオなどで観て頂き、園の様子を伝えた。園児の心の動きや援助する教員の思いや願いを伝えることで、保育内容への理解に繋がっている。</li> <li>・外部から講師を招き、子どもの自律性を促す子育てをテーマに保護者会講演会を行った（橋本祐子先生「子どもが自分の力で歩いていくために～幼児期から育てたい自律とは～」）。保護者が子どもへの接し方について改めて考える機会となった。</li> <li>・園児の心身の健全な発達を願い、園と家庭との連携、保護者同士の親睦を目的とし、保護者会親睦会、保護者会サークル活動が行われている。（木のパズル、コーラス、音楽、図書、手芸）。それぞれのサークルが園児に還元できる活動を行っている。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <p>保護者アンケートからは質問9「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して強くそう思うが61.6%、あまりそう思わないが2.8%となった。これは、預かり保育利用の園児が増加傾向にあり、教育時間内の降園後の連絡や伝えている様子などが、十分に伝えられていないことが考えられる。</p> <p>教員アンケートからは質問10「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが64.3%、どちらかと言えばそう思う21.4%となった。教員は、保護者に対して園児のことやクラスの連絡事項などを、細やかに伝える必要性は感じているが、降園時間が不規則な場合、十分に伝えきれていない状況が伺える。</p>
<p><b>今後の方策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各教員が日々の保護者とのコミュニケーションを丁寧にとることを意識する。そして、より細やかな対応が取れるように、日頃から教員同士で話し合う機会を増やし、情報を共有する。</li> <li>・写真、ビデオ等を活用し、視覚的に、園児の日々の姿を保護者に理解してもらう機会を設ける。</li> <li>・教員と保護者が、園児を中心に考え、共に園児の育ちを支えていくという意識が持てるように、継続して教員から保護者に働きかけ、連携を深める。</li> </ul>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。



## 総合評価

5つの項目についての評価は、「キリスト教主義教育」、「保健管理」、「教育環境整備」に関しては、目標を概ね達成できていると思われ、これは、アンケート結果からも推測できる。引き続き具体的な取組を教員各々が熟考、共有し、実践していきたい。一方、「教育課程・指導」、「保護者との連携」については目標の達成には時間を要する結果となった。教員同士、また、保護者とのコミュニケーションを密に取りながら、園児を中心に据えた教育を実践し、園児の育ちを共に見守っていく姿勢を大切にす。

昨年度の方策を受けて取り組んできた中、今年度は教員の園内研修に外部からの講師を呼んだことが大きな変化であった。教員同士で保育場面の援助方法などについて語り合う中、様々な意見を聞き、教員それぞれが保育の質向上のために努力していく方向性を示していただき、取り組めた。

しかし、今回の教員アンケートの質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境（学会・研修会への参加も含む）づくりに努めている。」に関する数値からは、7.1%が「まったくそう思わない」と答えている。これは、今後の教員個々の保育研鑽の余地があると読み取れる。保育の質を担保するには、教員の研修は欠かせないものである。保護者にもその点を理解していただき、より充実した研修を行うことで、幼稚園の保育の質向上に向け、教員個々が意識を高められるようにする。

園児一人ひとりが喜びをもって園生活を送り、その園児の姿を通して、保護者からもより信頼を寄せられる幼稚園であるように、保護者との連携をさらに深め、安心感をもって子育てができる環境づくりに努めていく。

## 2019年度の評価をふまえて2020年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・指導
- ・保健管理
- ・保護者との連携
- ・安全管理

## 第三者評価／学校関係者評価

### <キリスト教主義教育>

- ・キリスト教主義に基づき、子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくという考えのもと、子どもの個性を理解し、子どもたちが主体的に遊び、充実感を味わえるよう保育を工夫することで、自分や人の大切さを子どもたちが実感できる取組が行われています。
- ・結果にとらわれず、過程を大切にしたい取組が、子どもたちの関心や意欲を高めています。
- ・誰に対しても親しみを持って、仲良く、優しく接する子どもたちの姿から、キリスト教主義教育の成果が伺えます。

### <教育課程・指導>

- ・日々の子どもの姿をもとにした、きめ細かな教育課程が編成されています。
- ・自然豊かな園庭の環境を十分に活用し、子どもたちが日々、五感を通じて豊かな体験活動をするを何よりも大切にしています。
- ・個々の子どもの実態に配慮された物的、人的環境の設定が工夫されていることで、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい保育がなされていることがわかります。
- ・園内・園外研修を積極的に行い、保育の専門性や教員の資質を高めるよう努めています。

### <保健管理>

- ・子どもの健康状態について全教職員が共有するよう努めています。
- ・毎朝登園時に保護者と園児の健康状態、その他様々な話が出来ることが保健管理上非常に有効であり、登園後も、保護者と連絡を密に行うよう努めています。

- ・アレルギーについての対応や緊急時の対処法についても研修を行うと同時に体制を整えています。
- ・今後さらに「ほけんだより」「学年だより」等を活用することで保護者との連携を強めることができるものと考えます。

#### ＜教育環境整備＞

- ・施設、設備については毎日教員が安全確認を行い、随時修理等が行われるように努めています。また、絵本、図鑑、大型紙芝居等の教材の充実にも努めています。
- ・園庭の一部の土壌改良、砂場の衛生管理、樹木の剪定など、教育環境整備の取組を常に行っています。
- ・教員が種々の研修に参加し、自身の力量を高めることができるよう日程の調整なども進めています。

#### ＜保護者との連携＞

- ・登降園時、家庭訪問、保育参観等の機会を通じて、保護者との連携を強めるよう努めています。また、気軽に子育て相談なども出来る関係が構築されています。
- ・「ホームページ」や「ようちえんネット」を活用して、日々の出来事や伝達事項などを発信しています。
- ・保護者会講演会が積極的に行われており、保護者の保育内容への理解に繋がっています。
- ・PTA活動とは別に、自主的な保護者のサークル活動が行われており、保護者同士の関係が深まるとともに、保護者が園に足を運ぶ機会が増えることで幼稚園理解、子ども理解につながっています。

評価項目（教育課程・指導）（教育環境整備）において、園は研修の機会確保や充実に努めているにもかかわらず、教員アンケートの質問9「教育・研修のための環境づくり」では否定的な回答が14.2%となっている。研修のあり方や教員の意識についての分析が必要です。

保護者アンケートの結果はどの項目も圧倒的に肯定的なものとなっていますが、質問13「“Mastery for Service”を知っているか」について、否定的な回答が16.4%となっています。学院を貫くスクールモットーであることから、さらに保護者の理解を深めることが必要です。

豊かな自然の中で伸び伸びと活動する幼児の姿と、それを優しく見守りながら適切に指導を行う教員の姿から、幼稚園が推進しているキリスト教主義に基づく温かい保育を見ることができました。

関西学院幼稚園は、キリスト教の根幹ともいえる愛情を感じる教育を実践されていることを、日々の保育から実感します。また、園環境の豊かさの中で、子どもたちはゆったりと四季の自然を感じることができます。さらにその中で、日本の伝統的文化である「凧あげ」の製作等、その過程において教員の子どもへの丁寧なかかわり、興味関心を促進する話しかけから質の高い保育を継続されていることがわかります。

#### 【キリスト教主義教育】

- ・園では教員が園児の姿を受け止め、愛情深く関わっておられる様子が見受けられました。そのことは保護者および教員のアンケートからの高評価であることから明らかで、園児一人ひとりを大事に守り育てるキリスト教保育を実践しているといえます。
- ・毎朝保育前に教員全員で祈祷会を行い、讃美歌を歌い、祈りから一日を始めることから、キリスト教主義教育の共通理解につながる努力をされていることが分かります。

#### 【教育課程・指導】

- ・質問4「子どもの主体性を育む保育・保育プログラムの実践と援助」について、教員からは前年度に引き続き、「強くそう思う」の数値に大きな変化は見られていないことが指摘されています。さらにその要因として、①保育を展開する上での子ども理解や技量の不十分さの認識から出る

自省的な結果、②若手教員の増加や多様な雇用形態による教員間の意識の差が生じている、の2点が挙げられ、今後の課題が明確になっていますが、多くの教員は素敵な保育をされていると感じました。

- ・保育参観では、活動の過程を大切にしている教員の姿勢から園児の意欲、葛藤、満足感など内面に働きかけていることがよく伺えました。

#### 【保健管理】

- ・幼稚園が行っている保護者向けの「ようちえんネット」や降園時のアナウンス、および園医による「ほけんだより」の配布等により、保護者に子どもの健康面についての知識がよく伝わり、改善されたことが分かります。
- ・教員間、教師会の伝達以外においても、日常におこる園児の体調や精神的な変化の共有ができたことは、意義があったといえます。しかしその一方で、質問5に「あまりそう思わない」と答えた教員にとっては、体調の変化や怪我をした子どもに対する判断や対応について、教職員間で十分に共有されていないと感じているということは、今後の課題でもあります。

#### 【教育環境整備】

- ・質問7「幼稚園は補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検・整備を適切に行っている。」の保護者の結果として、「強くそう思う」68.2%、「どちらかといえばそう思う」31.3%とあり、保護者はほぼ満足されていることが伺えます。
- ・教員アンケートでは、「保育者の教育・研究のための環境(学会・研修会への参加も含む)作りに努めている。」について、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」との答えがそれぞれ7.1%みられました。この要因として、園内研修や研修会に参加する機会は十分に与えられているものの、一部の教員が求める研修会との不一致という理由が挙げられ、今後期待したいところです。

#### 【保護者との連携】

- ・質問10「幼稚園は日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」、および質問11「保護者との連携」について、教員側に「あまりそう思わない」という回答があり、保護者よりも否定的に捉えていることがわかります。その要因として、預かり保育利用の増加傾向、教育時間内の降園後の連絡が充分ではないことが挙げられています。教員は多くのことに配慮が求められ、大変であることを実感します。
- ・保護者との連携については、まず細やかな対応につながる教員間での連携が必要であるという自省から改善につながることでしょう。

全体的に2019年度の改善目標であった「保健管理」として健康状態の把握と教員間での連携、保護者への情報発信が功を為して、日常の健康管理、疾病予防の取組といった面において、改善が見られています。さらに、「教育環境整備」として施設・設備の維持、教員の教育・研究環境の充実などについても、昨年度の自己評価がBからAへと目標がおおむね達成され、努力の様子が伺えます。

その一方で「教育課程・指導」として教育課程の共通理解、保育の専門性の向上である各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助に関する自己評価がやや低下したようです。その要因として、若手教員の増加による自省的な意識、多様な雇用形態による教員間の意識の差を挙げられていますが、まずは保育の専門家として、日々の研鑽を怠らないようにすることが大事であると考えます。

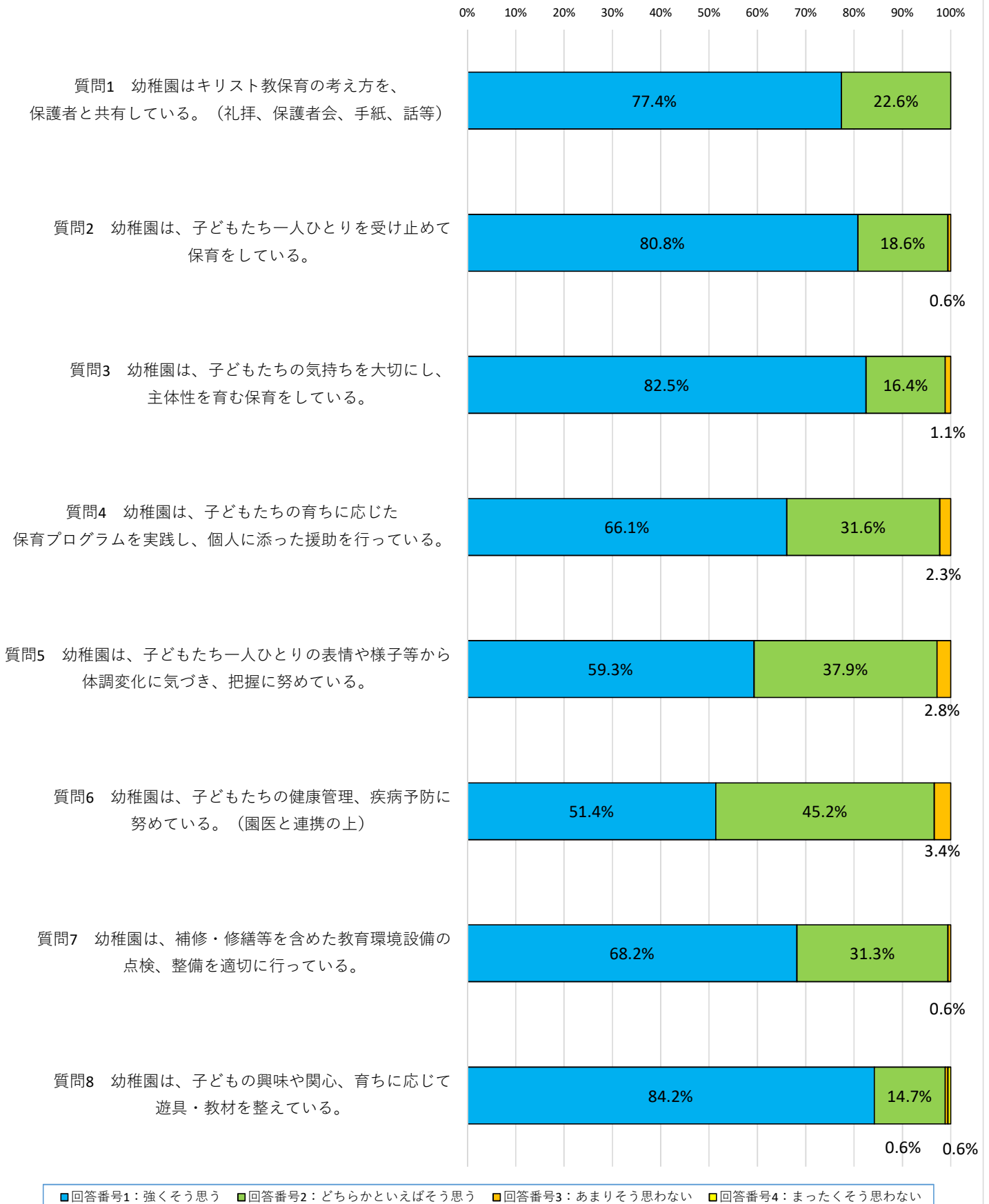
今年度のアンケートで特筆すべきことは、項目「関西学院のスクールモットーを周知しているか、共感しているか、目に見えない『心の教育』を大切にしているか」という3項目が昨年度と比較して増えたことです。これらは質問1「キリスト教の理念を共有しているか」にも関連する内容でもあったと考えます。教員の意識としては、日々の礼拝を通してキリスト教保育の理念を共有し、概ね“Mastery for Service”の精神につながっていると感じ、高評価でした。しかし、仕方がないことですが、保護者アンケートでは、質問13「私は関西学院のスクールモットーを知って

いる」、質問 14「スクールモットーに共感する」の結果から、「強くそう思う」に該当するという回答は少なく、今後の課題であるとも考えられます。

概ね高評価の保育をされているという印象でしたが、総合評価に書かれた 2 点、①保育の質を担保するための教員研修により幼稚園の保育の質向上、および教員個々が意識を高める。②保護者からより信頼を寄せられるよう保護者との連携をさらに深め、安心感のある環境づくりに努める、を次年度の課題として取組まれることを期待します。

- ・ 5 つの評価項目の具体的な取組から、「園児一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育」の実践がみとれます。アンケート調査では、すべての質問項目で「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的回答が高い数値を示し、園児一人ひとりへのきめ細やかな保育がおこなわれていることがわかります。
- ・ 「保健管理」「教育環境整備」は、昨年度は「B」評価にとどまりましたが、2019 年度は「A」評価に改善されました。前年度に示された「今後の方策」を確実に実践につなげた成果であるといえます。特に、教員アンケートの質問 5「幼稚園は、園児一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」、質問 6「また、怪我、疾病等の対応については園医に相談の上、行っている。」において、「強くそう思う」の数値が高まったことは大変評価できます。
- ・ 「教育課程・指導」は前年度の「A」評価から 2019 年度は「B」評価になりましたが、教員アンケートの質問 3「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、自主的・意欲的に活動できるように保育をしている。」、質問 4「幼稚園は、子どもたちの育ちに合った保育プログラムを実践し、個人に添った援助を行っている。」においては、「強くそう思う」の数値が前年度以上の結果となっています。今後の方策として、「(前略) 教員間での教育理念の継承(方法論だけではなく、園として大事にしてきた歴史や経緯について)を行う」ことや「(前略) 保育内容を教員全員で振り返り意見交流を行う」旨が記されました。関西学院幼稚園の長い歴史の中で培われた保育は、このように教員間で常に話し合い連携をとりながら守られてきたことがわかります。子どもを中心とした伝統ある保育を今後も実践していただきたいと思えます。
- ・ 「教育環境整備」において、災害への対応が記載されたことは大変評価できます。来年度の評価項目としても「安全管理」が新たに設けられました。子どもの安全を確保するための具体的な取組が期待されます。

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者 (回収率 85.9% 177人/206人中)



2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者 (回収率 85.9% 177人/206人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

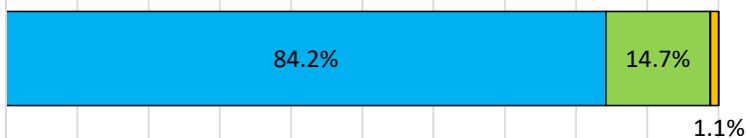
質問9 幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。



質問10 幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている。(保護者会、講演会、行事等)



質問11 お子様は、幼稚園で過ごす事を楽しいと感じている。



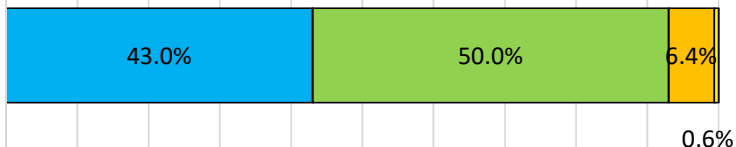
質問12 幼稚園の教育・保育に満足している。



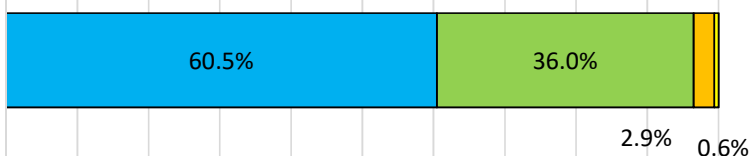
質問13 私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。



質問14 私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。



質問15 幼稚園は、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながるよう目に見えない「心の教育」を大切に保育を実践している。



■回答番号1: 強く思う ■回答番号2: どちらかといえば思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員 (回収率 93.3% 14人/15人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■回答番号1: 強くそう思う ■回答番号2: どちらかといえばそう思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員 (回収率 93.3% 14人/15人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

質問9 幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境  
 (学会・研修会への参加も含む)づくりに努めている。



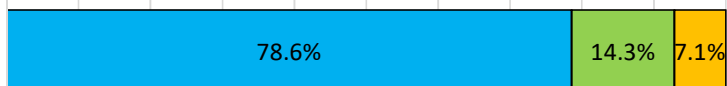
質問10 幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を  
 保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、  
 共に子どもの育ちを支えている。



質問11 幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、  
 保護者と連携を図っている。(保護者会、講演会、行事等)



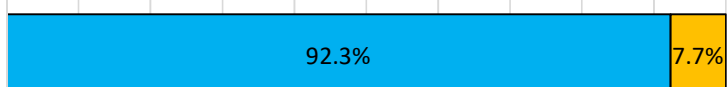
質問12 教員は幼稚園に勤めている事に誇りを持っている。



質問13 教員は向上心を持って幼稚園に勤めている。



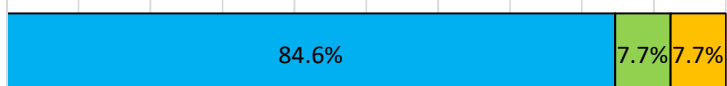
質問14 私は、関西学院のスクールモットーが  
 “Mastery for Service”であることを知っている。



質問15 私は、関西学院のスクールモットー  
 “Mastery for Service”に共感している



質問16 幼稚園は、  
 「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の  
 育成につながるよう目に見えない「心の教育」を  
 大切に保育を実践している。



■回答番号1：強くそう思う ■回答番号2：どちらかといえばそう思う ■回答番号3：あまりそう思わない ■回答番号4：まったくそう思わない